

## 第63回国立大学法人筑波技術大学経営協議会議事要旨

I 日 時 平成29年11月16日(金) 14:00~15:00

II 場 所 天久保キャンパス管理棟大会議室

III 出席者等

- ・出席者 石塚和重、石野富志三郎、石原保志、大越教夫(議長)、川村恒明、北原保雄、菅野映之、須藤正彦、宅清光、竹下義樹、内藤一郎、廣瀬寛、森戸久雄、四日市章  
(五十音順・職名略)
- ・欠席者 宍戸和成、谷川彰英(五十音順・職名略)
- ・陪席者 大島慎子監事
- ・事務局 山末企画課長、佐藤財務課長、小暮聴覚障害系支援課長、高瀬視覚障害系支援課長  
他6名

IV 議 事

1 前回議事要旨の確認について

議長から資料1により説明があり、案のとおり確認された。

2 審議事項

(1) 平成29年度筑波技術大学運営経費予算の補正について

事務局から資料2により説明があり、審議の結果、了承された。

(主な質疑応答 ○:学外委員、●:本学 以下同じ)

- 人件費について、職員が2名減となっているが、どのような事情によるものか。
- 総務課長が企画課長と兼任になったことによる1名減と、技術職員の任期満了退職による1名減である。後者の後任には非常勤職員を雇用し、業務への支障はないようにしている。
- 教員も3名減となっているが、大学の規模に照らして運営に影響が出るのではないか。
- 公募の候補者と本学との希望が合わず採用できなかったため、欠員が生じているが、非常勤講師の任用や本学教員の自助努力で対応している。来年度は人員を補充できる予定である。

3 報告事項

(1) 平成30年度大学院技術科学研究科の入試実施状況について

事務局から資料3により説明があった。

- 受験者の合格率が高いが、大学院のレベル維持において問題はないのか。
- 研究計画やテーマを審査し、基準を満たさない受験者は不合格としている。海外からの受験者については日本語の能力も含めて審査している。入学者のほとんどは問題なく修了できている実績があり、適切に選考されていると考えている。

(2) 平成30年度産業技術学部・保健科学部の推薦入試及び社会人入試の実施状況について  
事務局から資料4-1及び4-2により説明があった。

- 保健科学部鍼灸学専攻の応募者が特に少ないが、出願者を増やすための取組みはあるか。
- 応募予定者への電話連絡のほか、本学への理解を深めてもらうため、直接学校へ行った  
り、保護者全員に案内を送付したりしている。

- 志願者確保には保健科学部の抜本的な改組が前提となるが、進捗状況はどうか。
- 文部科学省での事前相談を踏まえ、新専攻の学位について、「マネジメント学」ではなく、従来の「工学」に戻すことも視野に再検討しており、年内を目途に、改めて文部科学省に事前相談を行う予定である。
- 改組に意義を持たせるためには、既にある工学系ではなく、人文社会系コースへの社会的ニーズを取り入れるべきではないか。
- 当初は、人文社会科学系の学位を想定していたが、現実的には、定員も教員数も限られており、新たな学位で認可を得られるだけの教員配置は困難である。今後、教員組織の一元化により、社会のニーズに合わせた抜本的な改革も可能になると考えている。

(3) その他

- 茨城県保健福祉部で障害者クラブに係る長期計画を立てているが、これまで本学との連携があまり見られなかった。地域との連携や全国的な展開について、施策を検討していくべきではないか。
- 既に行っている事業として、県の教育系特別支援学校との連携や、障害者スポーツイベントへの積極的参加、ミュージアムや水族館との情報保障に係る共同研究などがある。今後、より活発に行っていくべきだと考えている。
- 大学名にも学部名にも障害者との関係が見えないことが、外部から本学が十分に注目されていない原因ではないか。
- 広報資料等では、大学名に「障害者のための」という言葉を付記するなど広報に努めている。

以 上